

令和元年度後学期 授業評価アンケート結果のまとめ

1. 実施方法

- (ア) 評価対象授業：原則として全教員各1科目、履修登録人数が15名以上。
- (イ) 第13週または14週の授業開始時に教室で事務職員が用紙を配布し、回答を回収する。記名式マークシート。

2. アンケートの内容

- (ア) 設問1：授業方法について6項目、設問2：授業内容について4項目。これらの回答は三択（はい、どちらともいえない、いいえ）で、それぞれを10:5:0の10点満点に換算して平均点を求め、その合計を総合評価点とする。
- (イ) 設問3：授業で身に付いた力については、6つの項目に対して当てはまると思うものを回答する。
- (ウ) 設問4：履修の動機および1回の授業あたりの授業外学修時間について、それぞれ選択肢から当てはまるものを選ぶ。

3. 解析結果

(ア) 設問1・設問2の項目ごとの平均点分布を、授業属性ごとに分けてグラフにしたものを図1-1～4に示す。全体的な傾向は昨年度と同様であるが、共通基盤WS2で評価が改善された授業が多かった。

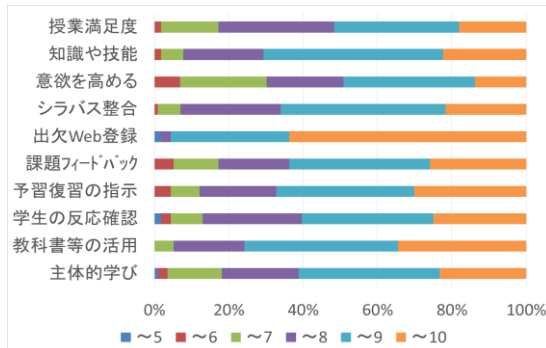


図 1-1 講義・演習 (n=116)

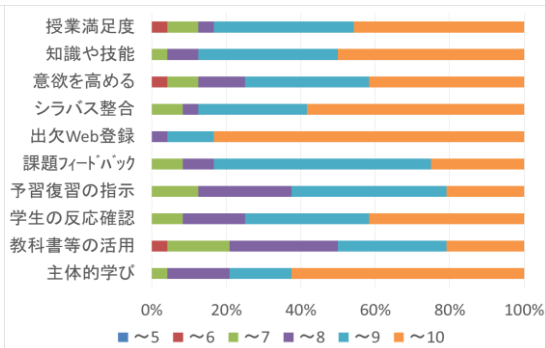


図 1-2 実験・実習・実技 (n=24)

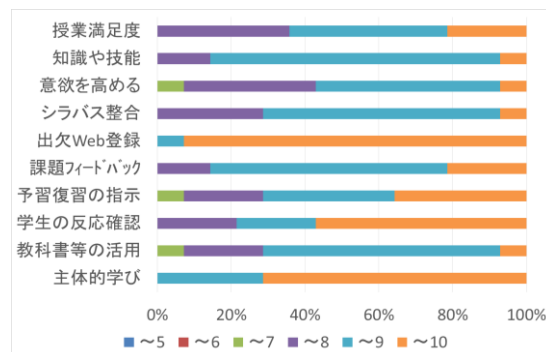


図 1-3 共通基盤 WS1B (n=14)

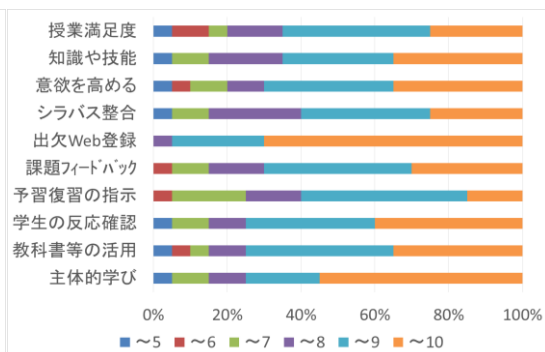


図 1-4 共通基盤 WS2B (n=20)

(イ) 総合評価点（講義・演習授業のみ）の分布を図2に示す。昨年度後学期と比較して、90点以上の授業が減少し分布が低得点側にシフトしており、原因の確認と対応が必要といえる。

(ウ) 1回の授業あたりの授業外学修時間の回答分布を、授業属性ごとに分けて図3に示す。これまでと全体の傾向はほとんど変わらず、まったく無しという回答が1/4程度を占める状況も同様である。本来、授業外学修は個々の学生が自主的におこなうべきものであるが、改善には強制力のある対策が必要と考えざるを得ない。

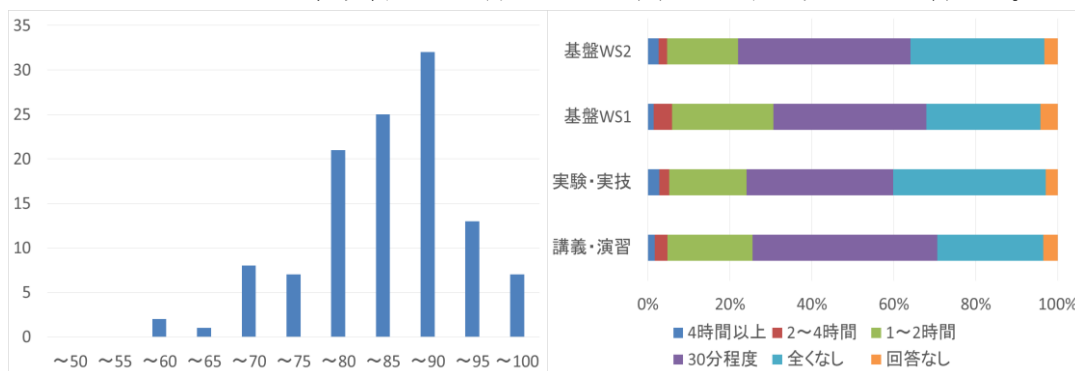


図2 総合評価点（講義・演習のみ）

図3 授業外学修時間

(エ) 身に付いた力各項目の回答率分布を、授業属性ごとに図4-1～4に示す。このデータは昨年度の報告には載せていないが、特に大きな変化は認められていない。前学期の報告にも記したように、個々の授業の目的や特性による違いが出てよいものであり、それぞれで適切な改善を進めていく必要がある。

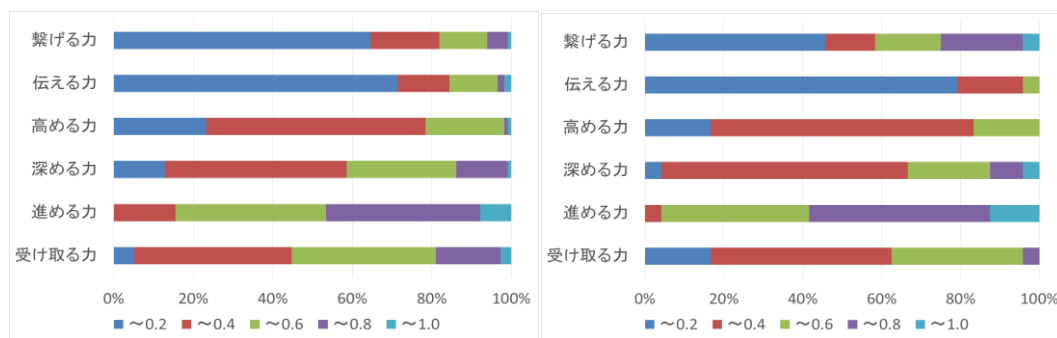


図4-1 身に付いた力（講義・演習）

図4-2 身に付いた力（実験・実習・実技）

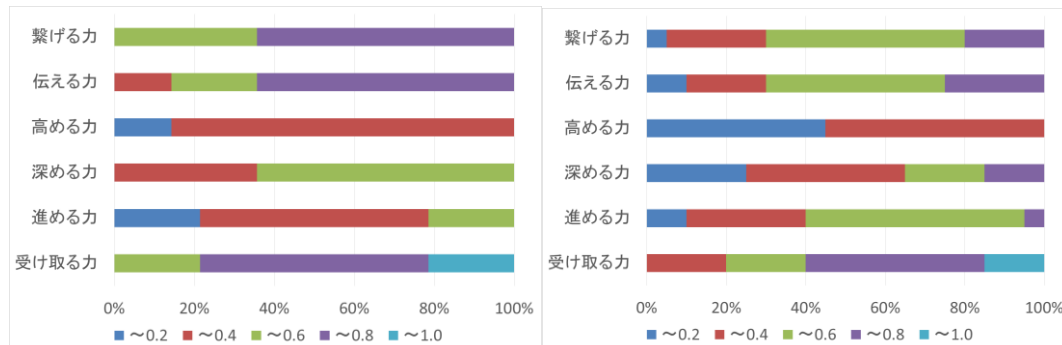


図4-1 身に付いた力（共通基盤 WS1B）

図4-2 身に付いた力（共通基盤 WS2B）